

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201072		
法人名	社会福祉法人 豊心会		
事業所名	和幸苑グループホーム望み		
所在地	別府市亀川東町20番14号		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	平成26年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

亀川東町自治会とともに、地域に根差した施設をめざし推進会議だけでなく、協同で防災訓練や連絡網作りなどを行い助け合う関係づくりを作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域と繋がりが密で、災害時の対策、特に津波を想定した地域ぐるみの避難訓練が実施され、事業所と地域の助け合う関係ができています。
 ・医療機関との連携も十分にできており、気がかりなことがあれば直ぐに医師が来て対応している。時節の健康留意も医師が呼び掛けている。
 レクリエーションを楽しみながら、下肢筋力の強化に取り組んでいる。
 ・三食手作り料理で、好きな物を食べやすく調理し、ゆっくりと食べている。
 ・職員は利用者が自分らしく、楽しく過ごしてくれるよう、常に話し合いながらケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと、職員が意識を高め地域の方々との関係性を大切にしている。	職員間で理念を共有し、実践へ繋がるよう努力がみられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事参加や、防災訓練を合同で行ったりしている。また、2か月に1度地域的美容室の先生に訪問していただき散髪してもらっている。	自治会と事業所の関係ができており、事業所の夏祭りは地域の人を招いての交流が定例化している。また、防災訓練も一緒にしている。日常的に地域から支えてもらい、見守ってもらえている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の参加や、防災訓練などを合同に行う事によって、認知症の方の理解や支援につながるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、利用者家族、自治委員、民生委員、地域包括支援センター職員とともに推進会議を行いサービス向上に努めている。	海に隣接したホームで、毎回防災について話し合っている。また、地域の防犯として街灯の取り付けが提案され、設置されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市への推進会議の報告、事業所の実績報告を行っている。わからないことは、担当者に聞くこともある。	相談事や疑問があれば直接出向き相談している。運営委員会の会議録を毎回提出し、ホームの状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で意識し、身体拘束をしないケアを努めている。	日々のケアが身体拘束や虐待に通じていないか、職員間で話し合い会議や研修でも学習している。(ベッドに触れるだけで傷つく方には、柵カバーなど工夫している。)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	別府市グループホーム協議会等研修を通し、職員とともに勉強している		

事業者名:和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様もあり、必要ね時に活用出来るよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約や重要事項の説明を行い、利用者様や家族などの不安や疑問に答えられるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度の運営推進会議や、年2回の家族会を設け、家族間での意見交換や交流が出来るようにしている。また、面会時家族の要望など聞けるように努めている。	家族会を年2回開き、意見を出しやすくしている。家族から職員の写真と名前を貼って欲しいと要望があり、入り口に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、グループホーム会議を開き職員の意見が聞ける機会を設けている	職員間や管理者、施設長との話しもしやすく、いつでも意見を出しあい運営に反映している。シフトや勤務内容についても気軽に話し合い、意見があればその都度改善に向け話し合い、実際に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持っている職員に対して、資格取得のための奨励を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修や試験が受けられるようにしている。また、別府市グループホーム協議会の研修の参加の奨励を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度のグループホーム協議会の研修を通して、他のホームの職員との交流が図れるようになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接で、本人と少しでも馴染になれる機会を設け、本人の話を聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時より、家族の困っていることや要望などを聞き、不安や求めるもの出来るだけこたえられるように努め、信頼関係を築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況と合わせ、サービス導入につなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや心の中を知るように努めている。お互い協働しながら和やかに生活できるよう、場面作りや声掛けを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や、職員の思いも伝えることで、本人を支える関係を築くようにしている。家族からも、本人を支える思いを聞き、寄り添うことで家族と同じ思いで支援出来るようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき等、本人の大切にしてきた関係が途切れないよう電話や外出の支援を行っている	保育園児や馴染みの美容院が定期的に訪問してくれている。また、友達の入所している特別養護老人ホームへ会いに行くなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の心身の状態や気分を注意深く見守りながら、利用者様同士がコミュニケーションをとりお互いに良い関係でいられるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用修了者は、入院先での死亡が多く継続的なかかわりは持っていないが、同じ法人の特養に入所された方などは面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、把握に努めている。言葉や表情等からその意思を推し量ったり、それとなく確認したりしている	一人ひとりの生活歴や昔の思い出、現在の思いを書き込み、職員間で共有している。状態による気持ちの変化にも耳を傾け、職員間で話し合い、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に自宅を訪問したり、本人や家族から聞き取るようにしている。利用者様にも折にふれ、家族や知人などどのように生活していたかを聞くように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろから家族や関係者からの情報や、利用者の思いや意向を把握しモニタリングに記入している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の会話の中から、本人や家族の希望を聞き反映させるようにしている。	毎日の生活状況から些細なことでもすぐに職員間で話し合い、プランに反映している。家族にもしっかり状況を伝え、本人と家族の希望を聞き取り、対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の生活の様子を個別に記録し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族の状況を把握し、その時のニーズに合わせ包括支援センターや、同法人の特養など入所等に対応している		

事業者名:和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、地域の一員として受け入れられている。防災訓練を自治会と合同にすることで、利用者様の状況と、災害時の助け合いが出来る関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が納得しかかりつけ医の受診や往診が受けられるようにしている	バイタルチェックを毎日連携医療機関へファクスで送り、医師が直ぐに来て対応している。毎週の往診もある。専門医療機関には、職員、家族と共に受診し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者の日常の生活や情報や気が付いたことを、職員間やかかりつけ医、Nsなどに伝え相談し、個々の利用者様が適切な看護が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院Dr、Nsと相談し出来るだけ早期退院が出来るよう情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時や毎月の手紙で利用者様の状況を伝えると共に、重度化や終末期の話を少しずつしている	入居時にグループホームとしてできることと、できない事を話し合い、医療的支援が必要となる時は再度話し合い、要望やニーズに沿った終末となるよう支援をしている。状況により、医療機関や対応可能な機関へつないでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事後発生時は、マニュアルにて対応している。また、かかりつけ医にすぐに相談できるよう関係を築いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は、火災だけでなく津波想定も行っている。東町自治会との合同訓練や、自治会との連絡網作りなども行っている	地域の方と毎月話し合い、年2回の訓練以外にも地域と合同訓練を実施し、津波発生時の車椅子の対応や避難場所への誘導など訓練している。夜間訓練を行う意向である。	早急に自治会や職員、家族と話し合い、夜間を想定した訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室になっておりプライバシーの保護は出来ている。利用者様の生活歴や性格を把握し、誇りを損ねないように声掛けに努めている	理念に「尊重」を掲げ、職員間で共有し声掛け時の強い口調や声のトーンなどその都度、注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自分の意思を伝えられる場面づくりや、励ましの声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の認知度が重度化してくるにつれ、希望をいう利用者様が減ってきているが、毎朝、職員が尋ね希望があればすぐに対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の長い利用者様には声掛けしながら、好みの髪型にしている。上着を全部ズボンの中に入れておくこともあり、身だしなみが整う様ケアを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者様に何が食べたいか聞き、希望があれば対応している。食事の準備と一緒に出来る利用者様はいないが、お皿を拭く手伝いをお願いし一緒に行っている	三食手作りで、食べたいものや、食材の使い方など利用者と話し合い、食べやすく調理をしている。食事時間はゆっくりと本人のペースに合わせて、満足できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Dr指示のもと、食事量や水分量を毎日記録している。体重低下の利用者様には、栄養補助食(エンシャア)を付けている。水分摂取の少ない利用者様にはコーヒーやジュースなどで補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼・夕食後利用者様の状態に合わせて、口腔ケアを行っている(朝食後は、夜勤者1名にて対応できていない)		

事業者名:和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、時間を把握し定期的なトイレ誘導介助を行い排泄を促している。また、日中布パンツにて対応している方もいる	排泄シートから一人ひとりのパターンを把握し、事前にトイレへ誘導、声掛けも工夫している。出来るだけ自立に向けた支援をし、布の下着を継続利用できるように対応もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・繊維質の物を多く使用し、定時に水分補給を行っている。また、体操 立位 歩行など運動やレクリエーションも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望される利用者は、認知症重度の為にない。夜間は職員1名の為に行っていないが、1日おきの午後入浴を行っている。嫌がる人には、足浴やみかんを浮かべたり、その人の生活歴によって朝入れるよう工夫している	隔日に入浴しており、午後お風呂に入りゆっくりしている。入浴拒否の方に対して、みかんや花を浮かべて楽しくなるよう工夫している。様々な方法を職員と話し合い、入浴できるような試みが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムが整えられるよう援助している。また、体調や表情、希望に配慮しゆっくり休息がとれるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋お薬表を、ファイルにまとめ全職員がいつでも見れるようにし、間違えが無いように服薬介助を行っている。異常が増らたら、かかりつけ医に報告指示を受けるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、掃除を一緒にしてくれる方、パズルや新聞を読む等生活歴や役割、楽しみごとの支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや苑近くへの散歩。みかん狩り、盆踊り等。体調に合わせて対応している。	天気の良い日は近隣へ散歩に出掛け、隣接のグループホームへ外廊下から自由に行き来している。季節の催しや希望による、ピクニックや商業施設での買い物などを楽しんでいる。	

事業者名:和幸苑グループホーム望み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かり事務所で管理しているが、一緒に買い物に行った時は支払いをお願いしたりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間や早朝以外で電話の申し出があれば、職員がダイヤルし本人に手渡している。本人自ら手紙が書きたいという申し出はない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は、天井が高く天窓も多いので開放感があり閉塞を感じることはない。四季にあった飾り付けを行い、季節感を取り入れている。	天窓から日が差し込み温もりが感じられ、季節の飾りや生花から時節が伝わっている。カウンターキッチンからは調理の様子や香り、まな板の音など五感に刺激があり、家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛けのソファや椅子を所々に設置しており、思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様の居室には、ご本人の思い出の椅子やドレッサー等なじみの品を置くことで、気持ちよく過ごせるよう配慮している	猫のポスターや折り紙、小物、家族と思い出のある馴染みの品など持込み、自分らしい落ち着ける居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活を送れるよう、職員は利用様を把握し、それぞれに応じた介護を行っている		